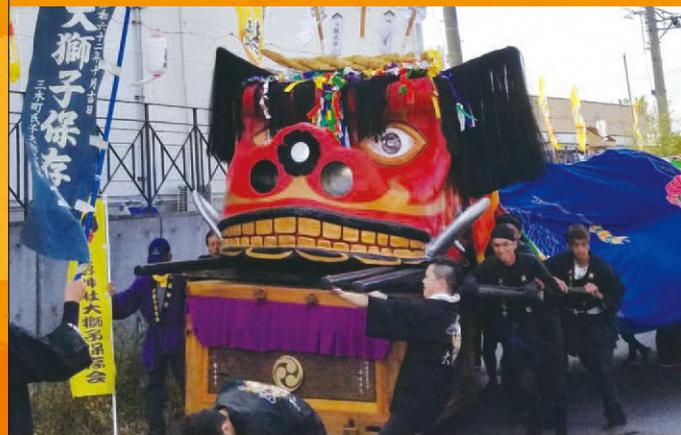




迫力の大獅子に 一目惚れ!

「はじめて大獅子を見た時、その大きさや迫力の動きに一目惚れして、それ以来ずっと大獅子のファンでした」と目をキラキラとさせながら熱く語るのは、大学の教授になるためにインドネシアから香川大学農学部に留学中のアリアント・ヘルマワン・ディさんだ。来年で留学期間が終わりインドネシアへ帰国するため、アリさんにとって今年最後のまんで願。そんなラストチャンスに大獅子の舞に参加できるとあって、今から当日が待ちきれない様子だ。



高難易度の頭の 動きを担当

インドネシアにも獅子舞はあるのだが、2~3人で舞う小獅子が一般的。アリさんも、子どもの頃に体験したことがあるようだが、今回、アリさんが担当するのは重さ数百kgもある頭の動き。総勢30人以上で担ぎ上げ、胴体の動きに合わせて高さを調整するなどチームワークに合わせて高さを調整するなどチームワークが欠かせない高難易度なパートだ。それでもアリさんは、「ちゃんと練習に参加して上手くやり遂げたい」と意気込む。



天野神社大獅子保存会からの応援メッセージ

アリアント ヘルマワン ディさんと
天野神社大獅子保存会の七條 正博さん、西山 岳さん、白井 悟さん

とにかく怪我することなく、思いっきり楽しんで、祭りを盛り上げて欲しいですね。そして、この体験をインドネシアの人たちにも伝えてくれたら嬉しいです。

世界へひろがる まんで願。の輪

三木町には香川大学の農学部と医学部に通う留学生が多く暮らしています。わずか数年ではありますが、留学生の皆さんもれっきとした三木町民。それでもって、三木町民なら「まんで願。」に参加せんといかんやろ!? てなことで、留学生の皆さんにも「まんで願。」に参加してもらいました!

みんなの楽しそうな顔がいい!

チョチョンがチョン♪今では獅子同様まんで願。に欠かせない存在になった三木音頭。「大人も子どももみんなが楽しそうな笑顔で踊っているの見て、わたしも踊ってみたい!と、ずっと思っていました」と語るのは、三木音頭に参加することになった中国からの留学生 李一帆(リイハン)さんとベトナムからの留学生 レティハミーさん。二人とも香川大学農学部に通っている。いわゆる踊り、ダンスは世界各国に存在するが、三木音頭のような盆踊りというジャンルはないという。「せっかく日本にきているので、日本の文化も体験しておきたいです。帰国したら、国のみんなの前で披露してみたいです」と二人。三木町の親善大使に任命したいところだ。



見よう見まねで 誰でも踊れる!

「三木音頭のいいところは見よう見まねで踊れるところ。パターンの繰り返しだから、誰でも簡単に踊れるの」と語るのは三木踊り部会の方々。ちゃんと振り付けが覚えられないか不安という二人も、その言葉にホッとしたりした様子。それでも真面目な二人は「ちゃんと練習して間違わないように踊ります」とヤル気満々だ。祭り当日は二人の他に9人の留学生がエントリーしているが、当日の飛び入り参加も大歓迎。エントリーできなかった留学生の皆さんも是非参加してみたいかだろうか。



李一帆さん、レティハミーさん、
三木町踊り部会の井戸 元子さん、穴吹 和子さん

踊り部会からの応援メッセージ

間違っても大丈夫だから、思いっきり楽しんでくださいな。あと、友だちもいっぱい誘ってくれて大丈夫だよー!